別紙様式1　　令和8年度　学校評価表　　（ 当初 ）　　三原市立本郷小学校　　校番（17）

a 学校教育目標	「なりたい自分」に向かって「挑戦」する三つ巴っ子の育成 －自ら磨く ともに高める 「本郷魂」－	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 主体的に思考・表現・判断し、夢に向かって挑戦できる子供の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 「三つ巴（知・徳・体）」の実現に向かって、ともに高め合う姿のある学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	評価 ロ	評価 ハ	m コメント
確かな学力	すすんで学び、よく考え豊かに表現する児童を育成する。	◎基礎・基本の学力向上	○学習の重点と系統性を意識した各学年の指導の充実 ○児童と設定する課題づくりとR80による振り返りの充実 ○児童間の対話による思考力・表現力の育成	★全国学力・学習状況調査・三原市実施学力調査における国語科及び算数科の全国平均に対する学力の状況 ★国語科・算数科学年末テスト正答率85%以上の児童	100% 80%	全国学力 国語 103% 算数 99% 国語 知・技 65.3% 思・判・表 67.6% 算数 知・技 67.8% 思・判・表 48.8%		国103% 算 99% 国 83% 算 73%	B C	・年度当初の目標を達成することができていない。 ・国語科・算数科ともに、文章から必要な情報を見つけたり（情報の整理分析）、適切に答えたりすることに課題がある。 ・既習事項を活用して応用問題にこたえたり、例をもとにして書いたりすることに課題がある。	【国語科】 ・「何について書かれているのか」「問われていることは何なのか」を意識し、キーワードに下線を引いて読む場を設定する。 ・5W1Hを意識して読んだり、書いたりする場を設定する。 【算数科】 ・図形の定義や性質を理解させるとともに、立式に必要な数値を補ったり、不要な数値を見極めたりする場を設定する。 ・数量の関係を線分図に表すことや全体 × 割合= 部分という基本の式をもとに立式する場を設定する。 ・目的に応じて必要なデータを集めて分類整理し、表やグラフに表したり、読み取ったりする場を設定する。	5			
		◎数学的な見方・考え方を働かせた「自ら学ぶ力」の育成	○一人一回以上の研究授業の実施 ○全員参加の協働的・継続的・発展的な授業改善協議の実施	★「算数の授業で課題を解決する時、数学的な見方・考え方を使って考えることができた」と回答する児童 ★「R80の振り返りを次時の課題設定や授業改善に活用している」と回答する指導者	85% 100%	94% 83.3%		111% 83.3%	A B	・年度当初の目標を達成することができている。数学的な見方・考え方を児童に意識させるために、導入時に既習事項の復習をすることで、課題解決に向けての見通しを立て、主体的に学びに向かう児童が増えたと考えられる。 ・年度当初の目標を達成することができていない。研究授業の指導案検討で、書かせたいR80について協議し、そこから逆算した授業デザインを行うことで、授業改善につなげている。しかし、R80を授業改善に活用するということの具体的なイメージを、職員全体で統一できていない部分がある。	・前期に引き続き、本時で身に付けさせたい数学的な見方・考え方や活用させたい既習事項について教師だけでなく児童にも共有することで、主体的に学びに向かう「自ら学ぶ力」の育成を目指す。 ・特に算数科の教材研究において、書かせたいR80から逆算した授業デザインを行う。また、R80を活用した授業改善の具体的なイメージの共有・統一を図るために、実践交流を行う。	5			
豊かな心	地域を愛する心を持つとともに、自他を尊重し、安心・安全な集団を育てる。	○地域（人・もの）と進んで関わり地域を愛する児童の育成	○コミュニティ・スクールを活かした地域GT・読書ボランティア等の積極的活用 ○各教科、道徳の時間、総合的な学習の時間等における地域学習の積極的設定	★「ふるさとが好き」「感謝の気持ちを持っている」と回答する児童	95%	97.5%		103%	A	・年度当初の目標を達成することができている。 ・コミュニティ・スクールを活かしたGTや読書ボランティアの活用に加え、生活科や総合的な学習の時間等で地域の方と直接かかわる体験活動を行った学年ほど数値が高かった。直接的な交流や関わりを通して、児童の地域への親しみや感謝の心がより深く育まれたと考えられる。	・地域の方との直接的な交流体験を、単年度・一部学年で終わらせず、全校的・計画的なカリキュラムとして位置付け、持続可能な連携体制を整える。 ・地域で学んだことや感謝の気持ちを児童から地域へ届ける（発信・還元する）機会を設け、互いに温かい関わりが続く関係性を育む。	5			
		○安心して挑戦・失敗ができる学校風土の醸成	○児童の発想を活かした児童会活動・学級会活動の工夫 ○教職員・家庭・関係機関間の情報共有と組織的取組の実施	★「学校が楽しい」と回答する児童	90%	93.6%		104%	A	・年度当初の目標を達成することができている。特に、学年が上がるにつれて低下する傾向が見られやすい中、高学年においても高い数値を維持できている。 ・教職員・家庭・関係機関が連携し、児童の小さな変化や課題に対して組織的に早期対応を行ったことで、児童が安心して過ごせる体制の整備に繋がったと考えられる。	・意識調査や聞き取りを通して「楽しい・楽しくない」の具体的要因（学習・友人関係等）を早期に把握し、個に応じた対応につなげる。 ・異学年交流（縦のつながり）の推進し、たて割り班活動等を計画的に実施し、高学年の自己有用感向上と、全校的な安心感・思いやりのある人間関係づくりを図る。	5			
健やかな体	体力を高め、自他の健康を大切にしようとする意識を育てる。	○「運動が楽しい」「自分を成長させたい」という主体的態度の育成	○児童が成長を感じることのできる体育科授業の改善 ○着実な体力向上に繋げる継続した取組の工夫（サーキットトレーニング等） ○みんなと体を動かす楽しさを味わえる体験活動の充実（学級・縦割り班など）	★「みんなと運動するのが楽しい」と回答する児童 ★「自分は成長している」と回答する児童	80% 80%	94.4% 91.1%		118% 113%	A A	・年度当初の目標を達成することができている。体育科の授業においては、グループの中やクラスの中でお互いにアドバイスしあったり、作戦を立てたりする活動を授業の中に設定することで、友達と運動する楽しさを味わえた児童が多くいた。 ・年度当初の目標を達成することができている。授業の単元の最初に、「今の自分にはできないが、少しがんばったらできる」という個々の目標・課題を設定し主体的に学習に取り組める授業改善を行ったことで、自分の成長を実感できた児童が多くいた。	・引き続き、体育科の授業の中で、目標を児童に設定させるとともに、児童が運動が楽しいと感じたり、できることが増えたりする授業を行うようにする。 ・サーキットトレーニングを引き続き行うことで、体力の向上を図る。 ・友達と体を動かす楽しさを味わわせるために、児童会や体育委員とともに、全校で取り組むことのできる体験活動を行う。	5			
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに、15年間を見据えた教育を行う。	○「説明責任を果たし信頼される」学校・教職員	○時期に応じた全教職員参加型の服務研修の実施 ○学校運営協議会・懇談会等を通した地域・家庭・児童の願いの把握と組織的取組の充実	★不祥事ゼロ ★「本郷小学校は安心して子どもを通わせることができる」と回答する保護者	100% 90%	100% 98.3%		100% 109%	A A	・月1回の服務研修では、各回担当者が研修で扱う資料と流れを計画し、参加型の研修を実施することができた。また、テーマについても時宜を得たものになるよう計画を見直しながら行った。 ・学校運営協議会や保護者からの声を積極的に教育活動に取り入れることで、学校・家庭・地域の協働体制が強化され、保護者の肯定的評価につながった。	・不祥事防止の研修内容を時期や状況に応じた内容になるように工夫していく。 ・引き続き学校運営協議会を通して、地域に根差した教育活動を推進していく。	5			
		○三原市業務量管理・健康確保措置実施計画を踏まえた働き方改革の推進	○部を中心とした計画的・組織的な業務運営 ○目安として示す入校・退校時刻の厳守	★「仕事にやりがいを感じている」と回答する教職員 ★時間外勤務時間45時間以下の教職員	90% 90%	95.5% 100%		106% 111%	A A	・高い肯定感が示された一方で、否定的に回答した職員もいる。 ・時間外勤務時間45時間以下の教職員 4月～9月までの平均100%（100%達成）	・職員室内の対話や情報共有を大切にし、一人一人が業務の中で日々の成長や達成感を実感できるよう、組織的な体制を整えていく。 ・学期末等の多忙期における成績処理等の負荷を軽減するため、早期にスケジュールを提示・共有し、計画的に業務を進められるようにする。	5			

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j：自己評価 評価】
A：100≦（目標達成） B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80 D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価 評価】
イ：自己評価は適正である。 ロ：わからない。
ハ：自己評価は適正でない。